

授業科目 公衆栄養学 I			科目コード番号	
【担当教員名】 村山 伸子	対象学年	2	対象学科	栄養
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30
【概要】 公衆栄養学 I、II を通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。公衆栄養学 I では、現在の日本と諸外国の事例を中心に、社会における栄養問題の現状と主要な栄養政策や栄養プログラムとそれに関連する制度を理解する。				

【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	公衆栄養学	田中平三	南江堂	2000年・2500円
	国民栄養の現状-平成12年国民栄養調査結果第6次改定 日本人の栄養所要量-食事摂取基準	健康・栄養情報研究会 健康・栄養情報研究会	第一出版 第一出版	2002年発行予定 1999年・2200円
参考書	健康づくり栄養指導事例集	日本栄養士会	第一出版	1992年・3700円
その他配布資料	プリント等			

【評価方法】

出席20%、期末試験80%

【履修上の留意点】

【本科目の一般教育目標：G10 (General Instructional Objective)】

1. 日本や諸外国の健康・栄養問題の現状を把握し、それを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集分析してそれらを総合的に評価・判断する能力を身に付ける。
2. 社会の栄養問題への対応として、保健・医療・福祉・介護システムの中で、現在の日本や諸外国が実施している栄養関連サービスの制度やシステムを理解する。

【行動目標：SB0 (Specific Behavioral Objectives)】

1. 公衆栄養の概念、歴史の概要を説明する。
2. 日本人の健康、栄養状態、食生活のデータを分析し、現状と課題を読み取る。
3. 栄養問題の要因として日本の食物供給面、社会経済面、自然環境面のデータを調べて分析し、関係づけるための話し合いに参加する。
4. どのような対策が必要なのかについて、話し合いに参加する。
5. 現在の日本の栄養問題に対して実施されている栄養行政、国（国民栄養調査、栄養所要量、食生活指針、健康日本 21、栄養成分表示制度、特殊栄養食品、学校給食など）や自治体の各種プログラムの内容を概説する。
6. 栄養法規、栄養士養成制度、関連統計について適切な資料を選択して使用する。
7. 国際的な栄養問題の主要なものについて、現状と結果、原因、対策について説明する。

授業計画

教室 _____

回数	授業内容	SBO 番号	担当教員	教授学習法	学習課題 又は備考
1	公衆栄養の概念と歴史、地域の栄養活動を把握する枠組みを理解する	1	村山伸子	一般講義	
2	日本人の健康、栄養状態、食生活のデータを分析し、現状と課題を読み取る	2	同上	一般講義 グループ学習	
3	栄養問題の要因として日本の食物供給面、社会経済面、自然環境面のデータを調べて分析、対策を考える	3, 4	同上	グループ学習 一般講義	
4	グループ発表と補足説明	3, 4	同上	グループ学習 一般講義	
5	国と自治体（県、二次医療圏、市町村）の栄養対策プログラムの全体像	5	同上	一般講義	
6	国の栄養プログラム①：国民栄養調査の概要	5	同上	一般講義	
7	国の栄養プログラム②：栄養所要量の概要	5	同上	一般講義	
8	国の栄養プログラム③：食生活指針の歴史と内容	5	同上	一般講義	
9	国の栄養プログラム④：健康日本21の内容	5	同上	一般講義	
10	国の栄養プログラム⑤：栄養成分表示制度	5	同上	一般講義	
11	国の栄養プログラム⑥：特殊栄養食品、学校給食の制度	5	同上	一般講義	
12	栄養法規、栄養士養成制度、関連統計の種類、内容と参照方法	6	同上	一般講義 グループ討議	
13	国際的な栄養問題の現状と結果、原因、対策—先進国	7	同上	一般講義 グループ討議	
14	国際的な栄養問題の現状と結果、原因、対策—発展途上国	7	同上	一般講義 グループ討議	

その他